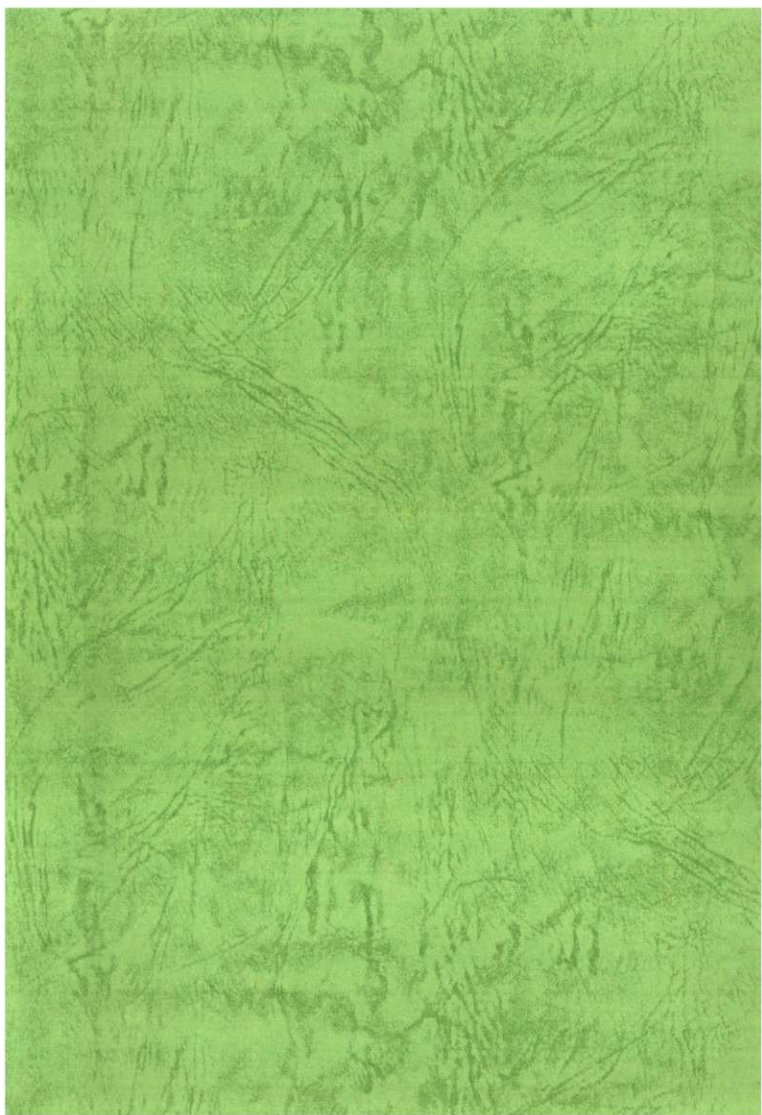


—平成22・23年度発掘調査報告—

埋蔵文化財調査報告書

2012年12月
兵庫県神崎郡
福崎町教育委員会



—平成22・23年度発掘調査報告—

埋蔵文化財調査報告書

2012年12月
兵庫県神崎郡
福崎町教育委員会

本文目次

あいさつ・例言	2
平成22年度調査	
1.南田原長目遺跡(確認調査)	4
2.南田原条里遺跡(第15次)(確認調査)	6
3.八千種県民交流広場新設に伴う試掘調査	8
4.西治地区ほ場整備事業に伴う試掘調査	10、11、14、15
平成23年度調査	
5.西治地区ほ場整備事業に伴う試掘調査	16、17、18
6.西治地区ほ場整備事業に伴う確認調査	18、19
7.南田原桶川遺跡(確認調査)	28
8.南田原条里遺跡(第16次)(確認調査)	30

図版目次

図1 福崎町位置図・調査場所位置図	3
図2 南田原長目遺跡(確認調査)	5
図3 南田原条里遺跡(第15次)(確認調査)	7
図4 八千種県民交流広場新設に伴う試掘調査	9
図5 西治地区ほ場整備事業に伴う試掘調査	12
図6 平成22年度土層図	20～23
図7 平成23年度土層図	24～27
図8 西治地区ほ場整備事業に伴う確認調査	13
図9 南田原桶川遺跡(確認調査)	29
図10 南田原条里遺跡(第16次)(確認調査)	31

写真目次

南田原長目遺跡(確認調査)	(1)
南田原条里遺跡(第15次)(確認調査)	(2)
八千種県民交流広場新設に伴う試掘調査	(3)
平成22年度西治地区ほ場整備事業に伴う試掘調査	(4、5)
平成23年度西治地区ほ場整備事業に伴う試掘調査	(6、7、8)
平成23年度西治地区ほ場整備事業に伴う確認調査	(9、10)
南田原桶川遺跡(確認調査)・南田原条里遺跡(第16次)(確認調査)	(11)

地 図

調査箇所	所在地	地図番号
南田原長目遺跡	兵庫県神崎郡福崎町南田原字下野畑579番1	1
南田原条里遺跡(第15次)	兵庫県神崎郡福崎町南田原字東田2209番1、2、2210番	2
八千種県民交流広場新設地	兵庫県神崎郡福崎町八千種字大谷276番1	3
西治地区ほ場整備地区	兵庫県神崎郡福崎町西治163番3	4
西治地区ほ場整備地区	兵庫県神崎郡福崎町西治字後家屋敷筋260番	5
西治下代ノ下モ遺跡	兵庫県神崎郡福崎町西治字下代ノ下モ669番1	6
南田原桶川遺跡	兵庫県神崎郡福崎町南田原字桶川3141番3	7
南田原条里遺跡(第16次)	兵庫県神崎郡福崎町南田原字川田2912番2	8

あ い さ つ

郷土を愛する心は、郷土の生い立ちを正しく知ることから始まります。埋蔵文化財は、郷土の埋もれた歴史をわたしたちに伝えてくれる大切な資料のひとつです。

福岡町では、西治地区のほ場整備事業や民間開発にともなう試掘調査・確認調査を実施した結果、今まで知られていなかった町の歴史の一端が少しずつではありますが、明らかになってきました。

このたび、平成22・23年度発掘調査の成果をまとめた報告書を刊行いたしました。わたしたちの祖先の足跡を知る資料として、広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にあたり、工事関係者の方々のご理解とともに、地元自治会等に多大なご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。

平成24年12月

福岡町教育委員会
福岡町教育長 高寄 十郎

例 言

1. 本書は、平成22・23年度に行った包蔵地内の確認調査と西治地区のほ場整備事業に伴い試掘調査を行った発掘調査報告書である。
2. 調査は、福岡町教育委員会が主体となり実施した。
3. 経費は、国庫補助金で実施した。
4. 各年度の調査体制は以下の通りである。

平成22・23年度

調査・整理事務局		整理作業・報告書担当	
教 育 長	高寄 十郎	文化財専門員	古田 陽
社会教育課長	山下 健介	文化財専門員	上野 健一郎(平成24年度)
社会教育課課長補佐	吉田 利彦	整理作業員	梶 智美
社会教育課課長補佐	福永 知美(平成24年度)		
社会教育課 主事	林 彰彦		

5. 挿図中に使用している方位は基本的に磁北を示している。
6. 本書の執筆は古田が行い、編集は上野が行った。
7. 遺構図・トレース・遺物実測・写真は古田が撮影した。
遺物の洗浄・接合・復元・遺物製図等は梶の協力を得た。
8. 現地調査作業には下記の方の協力を得た。(順不同・敬称略)
松岡正夫、内藤隆夫、隅岡弘、藤本茂己、梶智美、村上山由希子、西治区長、福岡町産業課
9. 整理作業等に関して下記の方の協力を得た。(順不同・敬称略)
梶智美、松岡正夫、内藤隆夫、神崎郡歴史民俗資料館、福岡町産業課

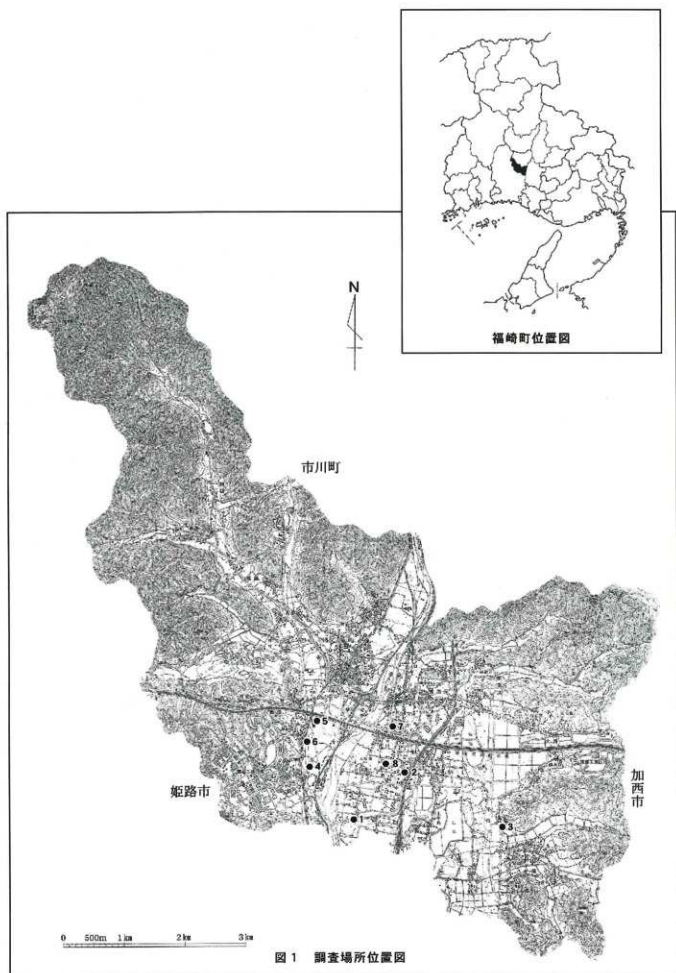


図1 調査場所位置図

1、南田原長目遺跡 確認調査

調査地区 神崎郡福崎町南田原字下野畑
579番1

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 古田 陽 (福崎町教育委員会)

調査期間 平成22年10月19日 (火)



○調査に至る経緯

携帯電話の基地局建設計画があり、南田原長目遺跡の範囲内として、確認調査を行った。

○調査方法

耕作土及び埋土を重機で掘削し、壁面及び遺構は人力で精査した。壁面調査及び記録写真図面作成は、適宜行った。

○調査概要 周辺の地理的歴史的環境

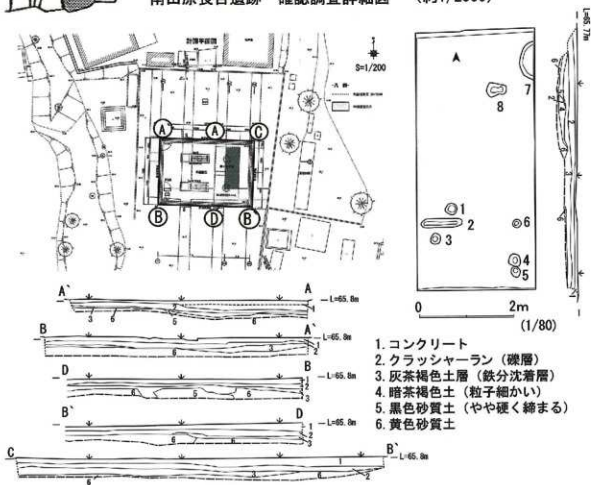
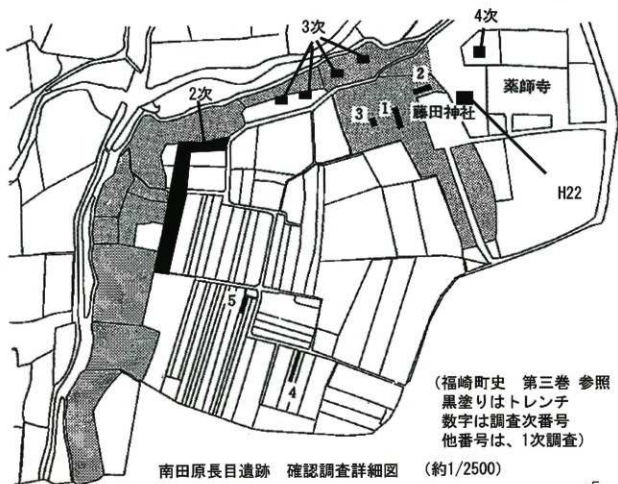
南田原長目遺跡は、福崎町の最南端に位置し、福崎町の主要部を眺望することができる。市川の東岸に南北に続く河岸段丘上に立地し、南東方一帯には、姫路市の八幡遺跡がある。平成12年に遺跡の範囲の南側を確認調査として2次調査を行っており、大きい破片がコンテナ15箱出土している。時期については、弥生中期中葉から後期に至る壺・甕類が見ついている。今回の調査地点の西側に隣接する藤田神社の山林の中では、鉄剣を模した鉄剣形石剣が出土している。(「兵庫県神崎郡野畑遺跡」『日本考古学年報』3 1955年)

○土層状況・まとめ

調査地点の現況は、墓地の分譲地であった可能性があり、コンクリート基礎が薄く敷かれている部分は墓地の参道で、その他の原野になっている区画が、墓石を配置する地点と考えられる。その区画の下には、細かく砕かれた石が厚く敷かれていた。

基本的な土層堆積状況は、表面から下位に約20cm前後までは、コンクリートの基礎があり、下部には、2～3cm程度の礫層のクラッシュランが敷かれている。下部には、灰茶褐色土層中に近代の陶磁器の小片が混じり、その下部には、暗茶褐色土で、細かい砂質の砂層が堆積する。黒色土層は、やや粘性のある砂質土で遺物を含む。地山には、黄色土の細かい砂質土で、無遺物層である。

遺構は、ピット状遺構が、8基見つかった。明確なピットは、3基(P5、7、8)である。2層直下に、ピット状の遺構(P1、2、3)を確認したが、猫の骨(P1)があり、墓地の基礎より前の近代と考えられる。3層中には、ピット状の遺構(P4、5、6)を検出し、5層は、P7の遺構が半分土層にかかり、6層中で、P8を検出した。P2～4、6、8からは、遺物が出土せず、時期は不明である。P5からは、弥生土器の底部が見ついている。以前までの調査と比較すると遺物の包蔵している量が極端に少なく、遺構・遺物ともに希薄な地点であり、藤田神社より南側に遺跡の密度が濃い部分が広がる可能性がある。



南田原長目遺跡 (平成22年度調査 平面図・土層図)

図2 南田原長目遺跡 (確認調査)

2、南田原条里遺跡(第15次)確認調査

調査地区 神崎郡福岡町南田原字東田
2209番地1・2209番2・2210番

調査主体 福岡町教育委員会

調査担当 古田 陽(福岡町教育委員会)

調査期間 平成22年12月24日(金)



○調査に至る経緯

平成22年度に露天駐車場の計画があり、南田原条里遺跡の包蔵地内と隣接地点であったため、確認調査の実施に協力を得ることとなった。

○調査方法

露天駐車場予定地内に5箇所の調査区を設け調査を行った。掘削には重機を用いた。壁面精査及び記録写真図面作成は適宜行った。

○周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、低位の氾濫原として位置付けられる場所であり、現況は水田である。

調査場所の東にある西光寺遺跡周辺で有舌尖頭器が出土し、南田原条里遺跡(第10次)では、弥生土器片や石包丁等、及び中世代の遺物も僅かながら見られる。

○土層状況

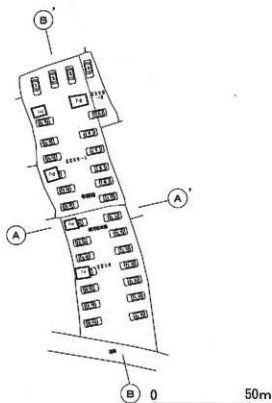
調査前の状況は、農閑期にもかかわらず水はけが非常に悪い地点である。基本的な土層堆積の状況は、1層の耕作土の下に2層の灰褐色砂質層があり、床土と考えられる。3層には旧水田層があり、4層に鉄分沈着したやや粗い砂層、やや黄色味の茶褐色層の床土が堆積する。5層は、青灰褐色で水が大量に湧き出て完全にシルト質土になっており、水流の堆積が考えられ、遺構・遺物ともに皆無であった。6層は、クロボク層の堆積が見られたが、遺構・遺物とも皆無であった。7層は、自然木が泥層中に大量にバックされており加工木は含まれていなかったが、遺存度が非常に良好で、直径2~4cm弱、長さは、約0.5~2m弱でやや細長い木であった。これらの木は、ほとんどの枝部分がやや曲っており、トレンチすべてから見つかり、その中でもトレンチ1と5の一番北側は、特に集中して出土した。おそらく、北側の低地部分が浅瀬のようになり、集まって堆積した自然の流木と考えられる。8層中には、中世の遺物が含まれていたが、堆積状況が悪く、やや砂に混じるような部分から見ついている。遺物自体も、ローリングを受けており、二次的な移動によるものと考えられる。調査区は、トレンチ1、2、3は、遺構・遺物とも皆無で、トレンチ4は、遺構なし、遺物は8層より数点出土した。トレンチ5からの遺物は、8層より数点の中世土師器・須恵器碗の口縁部の小片が出土した。

○まとめ

確認調査の結果、遺物の出土は2箇所で見られたが、2次的な移動が考えられる。土層状況からも遺構は確認できなかった。遺物は、中世の須恵器碗と土師皿(15世紀代)のものと考えられる。条里遺構に関係するような発見には至らなかった。

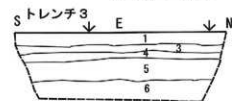
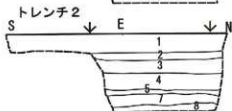
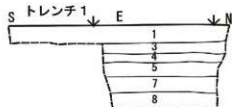


南田原条里遺跡(第15次)
確認調査詳細図

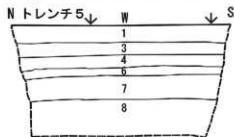


南田原条里遺跡(第15次)
駐車場建設予定地

(1/1000)



0 1m
(1/40)



1. 茶褐色粘質土 (耕作土)
2. 灰褐色砂質土 (床土)
3. 青灰褐色粘質土 (旧耕作土)
4. 茶褐色砂質土 (旧床土)
5. 青灰色シルト質土 (流路 水が湧き出る)
6. 黒褐色粘質土 (カ味? 遺物なし)
7. 暗黒褐色粘質土 (包含層1 自然流木を多く含む層)
8. 暗黒灰褐色粘質土 (0.2~0.5弱の砂がやや混じる)
(古墳、中世の土師器類を数点含む層)

南田原条里遺跡 (平成22年度調査 平面図・土層図)

図3 南田原条里遺跡(第15次)(確認調査)

3、平成22年度 八千種県民交流広場

新設に伴う試掘調査

調査地区 神崎郡福崎町八千種字大谷276番1

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 古田 陽（福崎町教育委員会）

調査期間 平成23年2月18日（金）



○調査に至る経緯

新設建物計画の場所が周知の遺跡と隣接する地点になり、遺跡の広がりを確認するため、試掘調査の協力を得て行った。

○調査方法

耕作土及び埋土、壁面及び遺構は人力で精査した。壁面調査及び記録写真図面作成は、適宜行った。

○周辺の地理的環境

調査地点の道を挟んで東側に八千種庄春日遺跡がある。この遺跡は、縄文時代の落とし穴が見つかっており、奈良時代の遺構・遺物も確認されている。それ以降の中世期では遺構・遺物のまとまりは、見つからない。

また平田川周辺の遺跡の分布をみると、縄文時代から古代・中世を中心に遺構・遺物ともに確認されている。そして、南東方向には春日山城の存在も考慮する必要があり、城を中心として中世の遺跡の広がりが期待できる場所である。

○土層について

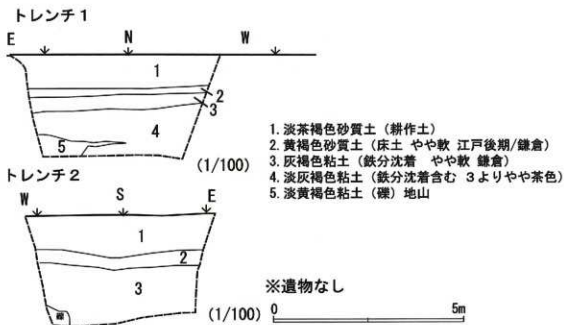
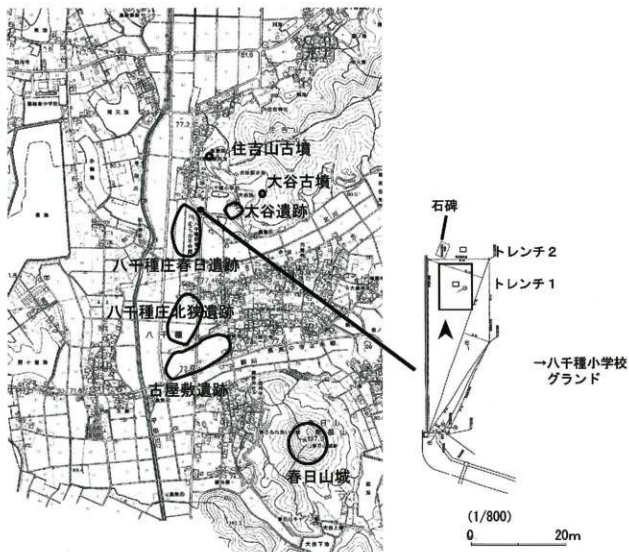
基本的な土層堆積状況は、1層は、淡茶色の砂質土の整地された層で、2層は、黄褐色砂質土の床土が広がり、3層は、灰褐色層の粘土質土中にマンガンが、直径1～2cmの丸い粒となり全体に均一に混じていた。4層は、3層よりややクリーム色の淡灰褐色の粘土質土であった。4層の中には、黄色礫1～5cm程度角礫が混じていた。これ以降4層以下は確認していない。

○まとめ

調査地点は、大谷池が麓にある住吉山に向けてやや斜面状に上がっており、段々に耕作地が展開している。今回の調査では、下位層の縄文時代の層の可能性の有無については、新設建物の基礎の深さが、約50cm以下であるとともに、工事車両が砂や砂利を運搬しており安全上の理由のため確認を行えなかった。

トレンチ1・2ともに遺構は、確認できなかったが、近世（17世紀代）には八千種小学校の石碑より2m地点から東側にやや段を持って傾斜することがわかった。そのため西側の公道から東側部分は大きく削平されていることがわかる。また3層の様子から上部に水田層があった可能性があるが、大きく改変され削平されていると考えられる。

今回においては、春日遺跡の隣接地でもあり、遺跡の広がりも想定できた場所であったが、遺跡の存在は希薄なものと考えられる。



八千種県民交流広場 (平成22年度調査 平面図・土層図)

図4 八千種県民交流広場新設に伴う試掘調査

4、平成22年度 西治地区

ほ場整備事業に伴う試掘調査

調査地区 神崎郡福崎町西治163番3地先ほか

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 古田 陽 (福崎町教育委員会)

調査期間 平成22年9月27日(月)

～10月4日(月)



○調査に至る経緯

西治地区ほ場整備事業に伴い発掘調査を行った。調査範囲内において、ほ場整備工事に伴い掘削、地下の様子が現状から大きく破壊される可能性がある部分について、面的な様子が見られるようにトレンチを配置、設置し試掘調査を行った。

平成22年9月21日付けで遺跡の有無の所在照会が兵庫県中播磨県民局 姫路土地改良事務所から提出され、それに伴い試掘調査の時期と方法、予算の負担等を協議し、平成22年9月27日から10月4日にかけて現地調査を行った。

○調査方法

耕作土及び埋土を重機で掘削し、壁面及び遺構は人力で精査した。適宜写真及び図面をとり記録した。調査時には、線路横際から約5m以上離れ、トレンチを設定し、深いトレンチを入れる際には、段差を設けて安全に留意しながら掘削を行った。主にトレンチサイズは、2.5m×3mである。(約7.5㎡、合計43.5㎡)

○試掘調査結果

調査対象全面積は、84.961㎡中で、試掘調査を行った部分の面積は約75.5㎡である。調査区を便宜上A～D区とする。A区は、トレンチ1～26、37、58とする。

この区は、旧字図では、茶ノ木筋と下河原の範囲に収まる。

B区は、トレンチ27～36とし、旧字では下代ノ下モの範囲になる。

C区は、トレンチ38～51とし、旧字では下代ノ下モの範囲になる。

D区は、トレンチ52～57、59とし、旧字では後家屋敷筋の一部範囲になる。

調査地の標高は、B区・C区の西側は、山側でやや斜面となり、A区・D区より標高が高い。この西側の地点には、鉄道を敷くために大きく掘削されている可能性があり、現状でも線路を挟んだ反対側の道路面の横手の山が削られている箇所が露出している部分が見受けられる。

○基本土層について

基本的には、上から順に、耕作土(主に水田、または畑)、その下層に水田の床土とみられる整地層(不透水層)がある。そして、その下部にも旧耕作土、旧床土と繰り返されるものがあるが、これらの堆積が欠如するものもある。また床土の層下では水が染みこんだ際にできたと思われるマンガン斑が見られ、鉄分沈着の砂質土のマンガン層を検出する。

最下層には、地山とみられる砂層もしくは、異なるサイズの礫が大小混在して出てくる。

主に、包蔵している堆積のものは、旧耕作土や旧床土の下位に土器を包含する堆積の暗茶褐色層粘土が挟まれる。

主にA区・D区は、西谷川の振幅による氾濫原の堆積が見られる。今回の調査では、クロボク層と思われる層がC区から見つかったが、遺物は含まれていなかった。

B区では、堆積状況が悪く、堆積の土が混在するような堆積で遺物を包含していた。土器片も状態が悪く、上部の地形が山の急斜面となっており、流れ込みによるものと考えられる。少し時間が経つと水が下から湧き出てきた。

○各トレンチについて

トレンチ1は、耕作土、床土、その下層には、2～3cmの川原石の丸い礫が50%を占め、その隙間に砂が混じる程度で堆積していた。その下層には、旧耕作土層中に旧床土が入り、マンガン層、暗灰褐色層の細かい砂層が見られ、以下、地山の砂層が、下層になるにつれ砂の粒子が細くなる。遺構・遺物とも皆無であった。

トレンチ2は、耕作土、床土、旧耕作土中に、1～2cmとやや小さくなるが、礫の割合が多く80%を占め、砂がその礫に混じる程度であった。その下層にマンガン層がやや黒化し、その下層は、暗灰褐色の堆積の良質のもの、遺構・遺物とも皆無であった。地山は、大きさが異なる川原石の礫層が堆積する。

トレンチ4は、耕作土、床土が落ち込んでいる様子が伺えるが、砂質土が堆積し、同様の層の中でも2～3cmの川原石の丸い礫が下層に溜まっていた。旧床土は、大きさの異なる川原石の礫層の砂質土が堆積する。遺構・遺物とも皆無であった。

トレンチ6は、耕作土と床土が交互に重なっており、旧耕作土が一部落ち込んでいるが、マンガン層も同様の窪み、遺構・遺物は皆無であり、自然な落ち込みである。

トレンチ27は、耕作土以下、地山の黄色粘土質土で、下部から大量の水が湧く。

トレンチ28は、耕作土中に炭層が混じる。下部は、地山の赤色の砂質土であった。遺構・遺物とも皆無である。

トレンチ29は、耕作土、旧床土が混じる。以下、全体に灰褐色粘土と暗褐色粘土とマンガン層が混じり合っており、トレンチ30の土器が出てきた土に酷似するが、遺構・遺物とも皆無であった。試掘坑を数分間放置すると地山シルト層から水が染み出てきた。

トレンチ30は、耕作土、床土、灰褐色の旧床土混じり層、旧耕作土に酷似した粘土質で、暗灰褐色と灰褐色とマンガン層が混じり合っており、全体の色が混在した層から遺構の確認はできなかったが遺物が多数出土した。出土遺物は、18世紀前半時代唐津系の打刷毛目の施釉陶器碗片、12世紀～13世紀の瓦質の甕、須恵器碗、11世紀末～12世紀前葉の須恵器片、弥生中期の口縁部片が見つかった。地形の西側より山の斜面が切られ削平を受け、流れ込みの遺物の可能性がある。

トレンチ31は、耕作土、床土、旧耕作土に似る暗茶褐色土中に瓦質の土器や土師器が含まれている。その下層に薄いマンガン層、灰褐色粘土質層、この中に瓦質片が含まれ、以下地山では、砂地で、水が湧いてきた。

トレンチ32は、耕作土に近代の陶磁器が含まれていた。以下、山の地山と思われる赤い土が含まれ、下部からは、水が湧き出る。遺構・遺物とも皆無である。

トレンチ33は、耕作土、床土、マンガン、暗灰褐色の粘土質の強い層から土師器片3点出土している。下部の赤土の地山面から水が湧く。遺構・遺物とも皆無である。



図5 西治地区ほ場整備事業に伴う試掘調査

トレンチ 3 4 は、耕作土、以下赤く粗い砂地で 1~2 cm の礫が約 4 0 cm 以上堆積しており、この中から近代の陶磁器が多数見つかった。人為的に整地している可能性が高い。

トレンチ 3 7 は、耕作土、床土、旧耕作土、マンガン以下地山の砂層であるが、砂層の中に暗茶褐色土層が一部見られたが、自然と思われる。遺構・遺物とも皆無である。

トレンチ 3 8 は、耕作土、旧耕作土、マンガンがやや黒化しており、地山は、黄土色の砂層である。遺構・遺物とも皆無である。

トレンチ 3 9 は、耕作土、以下、地山の茶褐色の砂層である。耕作土下部より土師器片 1 点出土。

トレンチ 4 0 は、耕作土、床土、旧耕作土、以下、地山は、砂と鉄分層が混じるシルト質土である。遺構・遺物とも皆無である。

トレンチ 4 1 は、耕作土、床土、マンガン層、以下地山は、黄土色砂層である。床土直下から土師器片 1 点出土。

トレンチ 4 2 は、耕作土、床土があり、旧耕作土には、暗渠が見つかった。暗渠の年代は、不明である。特に遺構・遺物ともなく、最下部には、青灰色の細かいシルト質粘土があり、自然流路の可能性が高い。

トレンチ 4 3・4 6・4 7 は、耕作土と床土が交互に堆積し、マンガン層、以下砂層であるが、全体に雨天の影響が、粘質であった。4 3 の旧耕作土より瓦質片 1 点出土、4 6・4 7 は、1 8 世紀後半の陶磁器片 1 点出土。

トレンチ 4 4・4 5 にかけてクロボク層と思われる層が見つかった。耕作土、床土、旧耕作土中に床土が混じる層、旧床土まで同じ層であるが、4 5 は、直下にクロボク層、4 4 は、マンガン層以下にクロボク層、以下地山粘土層である。4 5 は、クロボク層が地形に沿って、落ち込んでいる様子もうかがえた。この中からは、遺物は確認できなかった。4 4 の旧耕作土に古代と思われる須恵器・土師器出土、4 5 は、瓦質土器片 1 点、1 8 世紀後半の陶磁器片 1 点出土。

トレンチ 4 7 は、耕作土、耕作土混じり床土層、旧床土、マンガン層、砂混じりマンガン層、以下地山に砂層が入る。遺構・遺物とも皆無である。

トレンチ 4 8 は、耕作土、旧耕作土中に床土が混じり、旧床土、マンガン、灰褐色層、暗灰褐色があり、以下地山の茶砂質土である。灰褐色層中に、細かい人為的な溝状遺構を検出したが、近代の陶磁器が入っていた。以下の暗灰褐色層中には、土師器の表面の表裏とも生地部分が剥がれ欠けて出土した。出土遺物から、土師器片が、表面が剥離しているため、土師質土器の年代が困難であるが、1 4 世紀代の甕の口縁部が出土しており、古代の甕や土師器の甕の破片とも思われるものは下部から出土している。土師器は、中世と古代のものと考えられる。

トレンチ 4 9 は、耕作土、床土、旧耕作土は灰色固くしめる栗毛色の粘質土で、その下部には、マンガン層がまばらに入り込む層で、すぐ直下から、茶色の砂褐色の砂質土の中に、暗茶褐色の粘土質で構成されるピット状遺構が 2 基検出できた。このピット自体からは、遺物は、含まれていないが、同じマンガン層の直下から、陶磁器片が見つかった。

トレンチ 5 0 は、耕作土、床土、旧耕作土、トレンチ 4 9 と同様にマンガン層下部層から遺構が見つかったが、暗褐色層を掘り込んで、ピット状遺構が 1 基見つかった。この中からは、土器は見つからないが、同層から、古代の須恵器の杯、8 世紀後半~9 世紀後半のものや瓦質片 8 点が見つかった。

トレンチ 5 1 は、線路側には遺構は見られず。トレンチ 5 0・4 9 の東側よりに近い部分から、1 基ピット状遺構が検出された。トレンチ 5 1 は、耕作土、旧耕作土と床土が混じる層、

マンガン層、下位の茶褐色層中にピットが掘り込まれる形で、検出した。

トレンチ49とトレンチ51には高低差があり、現状の地形より西から東にかけて緩やかな斜面上となっていることがうかがえる。

トレンチ52・53は、耕作土、床土、地山の礫。遺構・遺物とも皆無である。

トレンチ54・59は、耕作土、床土、遺構・遺物とも皆無である。以下地山の川原石の礫1～10cm前後礫の大きさが疎らにまじる。

トレンチ55は、耕作土、床土、マンガン層、以下地山砂層で、遺構・遺物とも皆無である。

トレンチ56・57もトレンチ52と類似するが、地山に赤い礫層混じる。遺構・遺物とも皆無である。

トレンチ58は、耕作土、床土、旧耕作土、旧床土、地山に礫。遺構・遺物とも皆無である。

〇まとめ

今回の調査では、A区とD区は、河川の影響で低位の氾濫原の様子がうかがえる。昨年度の様相からも同様の続きが考えられる。今回それらの地点から旧耕作土中においても中世の遺物等は顕著に見つかっていない。

B区の30、31、33からは、遺物が含まれる範囲である。以西からは、削平の可能性も考えられるが、大量の水が湧き、遺構・遺物とも皆無であった。遺物が出土した地点にしては、包蔵している量はあるものの、確たる遺構はなく、また出土している土層や平面の土の状況から見ても土が混在しており、堆積状況は不良である。ここからの出土遺物は、土師器・須恵器、時期は、18世紀前半、12世紀～13世紀、11世紀末～12世紀前葉、弥生中期と混在して出土した。

地理的には、南側が山となり、昨年見つけている西治数叶ノ西遺跡が上部にあることから、両上部からの遺物の流れ込みの可能性が高い。

C区からは、トレンチ44・45からクロボク層が見つかった。遺物は見つかっていないが、西治地区では、初めての発見である。C区の51の以東とトレンチ48～50からは、ピット状遺構と遺物が見つかる。ピット状遺構については、半径約15cm、深さ20cmで、掘柱建物跡のように並ぶようなピットは見つからない。ピットの大きさも小さく、瓦等も見つかっておらず、簡素な建物の可能性があり、遺構自体の年代は、不明であるが、同層中より、中世と古代の遺物が多数出土した。注目すべき遺物は、甗が出土しており、底に多数の穴を開け、蒸気を利用した蒸し料理の調理器具である。この甗の破片は古代のものと考えられ、当時の人々の生活の様子がうかがえる大変貴重な資料である。

5、平成23年度 西治地区

ほ場整備事業に伴う試掘調査

調査地区 神崎郡福崎町西治字後家屋敷筋
260番地

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 古田 陽 (福崎町教育委員会)

調査期間 平成23年6月22日(水)～
6月28日(火)(計4日)



○調査に至る経緯

西治地区はほ場整備事業に伴い発掘調査を行った。調査範囲内においてはほ場整備工事に伴い掘削、地下の様子が現状から大きく破壊される可能性がある部分について、面的な様子が分かるようにトレンチを配置、設置し試掘調査を行った。

平成23年5月19日付けで遺跡の有無の所在照会が兵庫県中播磨県民局 姫路土地改良事務所から提出され、それに伴い試掘調査の時期と方法、予算の負担等を協議し、地元での要請で、現地には麦が植えられており刈り取り後に行うことが決定し、現地調査を行った。

○調査方法

耕作土及び埋土を重機で掘削し、壁面及び遺構は人力で精査した。適宜写真及び図面をとり記録した。調査時には、線路横断から約5m以上離れ、トレンチを設定し、深いトレンチを入れる際には、段差を設けて安全に留意しながら掘削を行った。

主にトレンチサイズは、1.5m×2mである。(トレンチ数39、合計117㎡)

○試掘調査結果

調査対象全面積は、48670.54㎡中で、試掘調査を行った部分の面積は約117㎡である。

調査区を便宜上A、B区とする。

A区は、トレンチ1～8とし、小字では、二反田となる。

B区は、トレンチ9～13、39とし、小字では、中村となる。

C区は、トレンチ14～23とし、小字では、江橋となる。

D区は、トレンチ24～31、38とし、小字では、下代ノ上ミとなる。

E区は、トレンチ32～37とし、小字では後家屋敷筋となる。

○地形と現地表面について

A区・C区の東半分、D区線路際、E区全体が氾濫原(高位)にあたり、その他は、氾濫原(低位)になる。

A区は、全体的に同じ標高である。

B区は、北側と西側に向けてやや段々状に高くなっている。

C区は、トレンチ14と18より北側部分は、耕作がされており試掘が不可能であった。この部分は、C区の中ではやや高い部分にあたる。

D区は、線路沿いのトレンチ24はやや高く、25～29はやや低く、30、31、38はより低い。

E区は、トレンチ32～37に向けて標高が下がる。

線路際は、盛土状に上げており、すぐ際は、水田のため大きく現地点での標高は下がる。

○基本土層について

基本的には、上から順に、耕作土（主に水田、または畑）、その下層に水田の床土とみられる整地層（不透水層）がある。そして、その下部にも旧耕作土、旧床土と繰り返されるものがあるが、これらの堆積が欠如するものもある。旧耕作に丸い河原石がたくさん含まれているところも見られる。旧耕作土上の下部に鉄分沈着層が堆積し、最下層には、地山とみられる明茶色層や砂層や青褐色の砂質が堆積し、下から水が湧き出る。

今回の調査地点では、遺構・遺物ともに皆無である。

○各トレンチについて

トレンチ1では、耕作土、床土、旧耕作土中に、1～10cmの川原石の丸い礫20%を占め、砂質土が堆積していた。その下層は、旧耕作土層中に旧床土が混じったような堆積を繰り返し、鉄分沈着層、砂層が見られ、明茶色の粘土層、最下層に青褐色層で、下部になる程、砂の粒子が細くなる。

トレンチ2では、耕作土、床土が薄く残り、旧耕作土、床土、旧耕作土、鉄分沈着層が堆積し、青褐色層、礫層が堆積する。

トレンチ3は、耕作土、床土、旧耕作土、床土、青褐色層中に、床土に混じる黄色土が斑点状に混じる。

トレンチ5は、耕作土、床土中に川原石1～10cmのバラツキに含み、下部には細かい礫が堆積し、鉄分沈着層と旧耕作土が混じり、青褐色層が堆積する。

トレンチ6は、耕作土、床土、旧耕作土、旧耕作土の床土混じり層、青褐色層が堆積する。

トレンチ7は、耕作土、床土、旧耕作土、旧床土、旧耕作土中の堆積下部に川原石1～15cm程度の平たい石が溜まり、青褐色層が堆積する。

トレンチ8は、耕作土、床土、旧耕作土中に川原石5cm程度が疎らに集中して溜まる。下層の明茶色中に、黒褐色が丸い斑点状の混じりが入る。

トレンチ13は、耕作土、床土中に暗渠が布設され、旧耕作土、旧床土、旧耕作土中に川原石1～3cm程度60%混じり層、鉄分沈着層、砂層、青褐色層が堆積する。

トレンチ16は、耕作土、床土、旧耕作土、旧床土、旧耕作土河原石1～20cmまばらに入り、下部層には、川原石1～3cm程度と砂層が混じり、鉄分沈着層、青褐色層が堆積する。

トレンチ17は、耕作土、床土中に川原石1～5cmが混じり層、旧耕作土、やや粘土質の明茶層が堆積する。

トレンチ29は、耕作土、旧工作中に床土が混じり茶色に変色層、旧耕作土層中に川原石1～10cm程度が含まれ、礫層で川原石が多い。

トレンチ30は、耕作土、耕作土中に床土がやや混じり茶色に変色層、旧耕作土、明褐色層中から水が湧く。

トレンチ34は、耕作土、床土、旧耕作土中に礫が60%含まれ、旧耕作土、礫層が堆積する。

○まとめ

今回の調査では、現況は水田に利用され、ほとんどが氾濫原の中に位置する場所であり、遺構等の存在は希薄なものと考えられた。小字名が後家屋敷筋という地名があり屋敷跡などが見つかると期待していたが、試掘調査を行った部分では見つからなかった。推測であるが、現在の家が建っている地点が屋敷跡の存在の前身である可能性もある。

今回の調査からは、遺構・遺物とも皆無で、旧耕作土についても時期が不明である。

また土層の堆積状況から旧耕作土と床土と繰り返しているが、その間に川原石の1～5cm、または10cm前後の川原石など、礫の大きさが疎らで乱雑に含まれており、人工的なものではなく、大雨や台風などの水害時の影響での自然堆積と考えられる。

6、西治地区ほ場整備事業に伴う確認調査

調査地区 神崎郡福岡町西治字下代ノ下モ669番1

調査主体 福岡町教育委員会

調査担当 古田 陽(福岡町教育委員会)

調査期間 平成23年6月29日(水)～
6月30日(木)(2日間)



○調査に至る経緯

西治地区ほ場整備事業に伴い発掘調査を行った。調査範囲内においてほ場整備工事に伴い掘削、地下の様子が現状から大きく破壊される可能性がある部分について、面的な様子が分かるようにトレンチを配置、設置し試掘調査を行った。

平成23年6月1日付けで遺跡の有無の所在照会が兵庫県中播磨県民局 姫路土地改良事務所から提出され、それに伴い確認調査の時期と方法、予算の負担等を協議し、耕作地の麦の刈り取り終了後に平成23年6月29日から6月30日にかけて現地調査を行った。

○土層状況

トレンチ4・5・6は、主に遺構は見つかっていないが、トレンチ4・5からは顕著に遺物が見つかっている。土層の3層については、旧耕作面からは床土の黄色の粘土が混じり、耕作面を何回か掘削等により削平され、遺物の時期も近世陶磁器から12世紀頃のものが含まれている。それより上部の層にも遺物が入っているが時期にバラつきがある。

5層は、遺物を多く含む、6層からの須恵器・土師器片は、古代～中世の遺物と考えられる。7層以下は、遺物は含まれていない。また、北壁の東から約10m前後で、5・6層ともに消え、3層が侵食し、4層下部以下7層となる。

○まとめ

今回確認調査では、前回試掘調査より遺跡の範囲を絞りこんでいたが、一部東・北側に展開の様子をみるためにトレンチを入れた。東側について、前回のトレンチ51では、ピットを検出したが、遺物等の散布が確認できなかった。今回トレンチ4・5ともに顕著に遺物が散布していた。遺構は現段階では検出できなかった。西側に比べて東側に遺物が顕著に見つかり、また地形通りにやや西側面がやや高くなっている様子もうかがえた。

北側について、遺物は見つかったが、顕著に見つからなかった。また調査地点の西側半分は、水田の区画が変わっており、その影響か、土層の様子が異なり、西側は、大きく削平または包含層の確認ができなかった。範囲については、平成22年の試掘調査結果より一部遺跡の範囲が広がったが、遺物が散布している状況を確認できたのみで、ピット等の遺構を現段階では確認できなかった。

○西治地区ほ場整備試掘・確認調査 まとめ

地形区分上は、七種川や西谷川の氾濫原となる部分で低位氾濫原と位置づけられる。集落の南部分の高台は段丘面に属する。現況は、水田として利用されている場所である。調査地のすぐ西には、西谷川が南流している。低位の氾濫原は、この西谷川の関連が強いといえる。福崎町立図書館の建設前には、西治二反田遺跡が確認され、水田として利用されている場所にも微高地が存在し、遺跡が広がることがわかった。西治二反田遺跡は古墳時代から中世にかけての遺跡と考えられる。また、平成21年度のは場整備に伴う試掘調査より西治数葉ノ西遺跡が確認され、中世代の溝が確認された。この部分については、やや他の水田面より標高の高いところに位置していた。そして平成22年の西治地区ほ場整備に伴う試掘調査より新たな遺跡が発見された。そこでは、遺物が細かいながらも多数出土した。字名「下代ノ下モ」より西治下代ノ下モ遺跡として登録を行った。平成23年度でこの遺跡に該当する部分が工事に伴い消滅の恐れがあるため、確認調査を実施し、遺跡の範囲の絞りこみを行い、本調査を実施した。本調査を実施し短時間ではあるが、弥生時代後期、古墳時代中期の住居跡が見つかった。他にも集落内から製塩土器や土鍾、甕など生活を営んでいた痕跡の確認もできた。また調査地の周辺には数ヶ葉古墳や円光寺古墳や円光寺山西古墳、三味谷古墳など、古墳時代中期後半以降の古墳の存在があり、密接に関係すると考えられる。ほか、試掘調査地点から遺跡の発見につながるものは見つからなかった。

元々、西治地区の土地が低く、平成22年度の梅雨時期には現在の西治公民館の駐車場に至る部分まで水に浸かり、周辺の水田も浸かるような土地である。全体として、西谷川や市川の影響で氾濫原の広がる地域で、耕作土層、旧耕作土下部には、床土が敷いてあり、床土の中から江戸時代の陶磁器片や明治期の陶磁器片が混じるのみで古い遺物は皆無であった。耕作地としての土地利用が古くからされており、耕作地の字名からも江戸時代の新田開発に伴うものが多いと考えられる。現在の集落域のように、現在の山裾側の高い部分に集中する生活圏と被る可能性がある。

また耕作土層の堆積以下には、直下は川原石や砂、礫層が堆積するものが多く見られた。その礫のサイズが大小異なって同じ層に堆積していた。また、地山からは、水が湧いてきた。また耕作土、床土下部に川原石10cm前後のもので暗渠を配置していたところも一部見つかった。

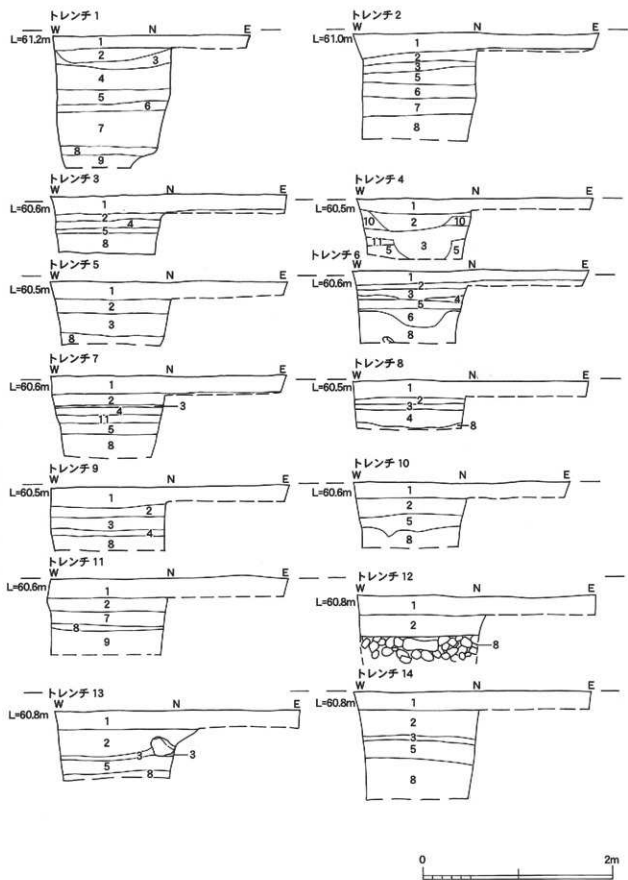


図6 平成22年度 土層図

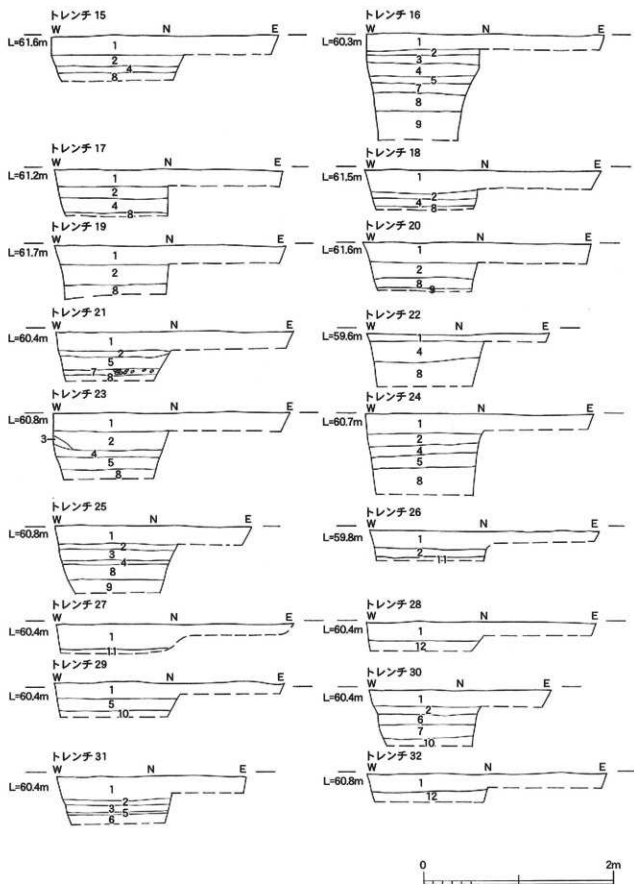


図6 平成22年度 土層図

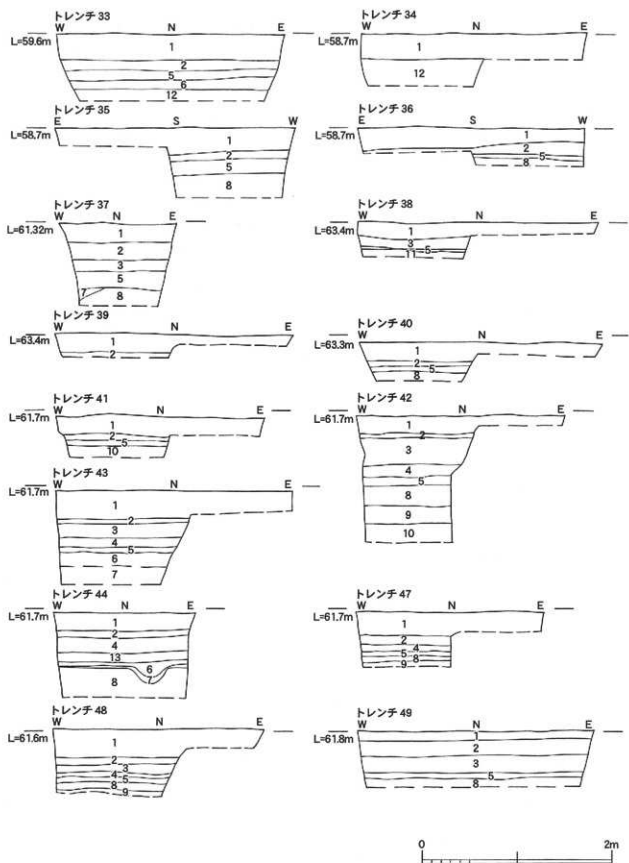
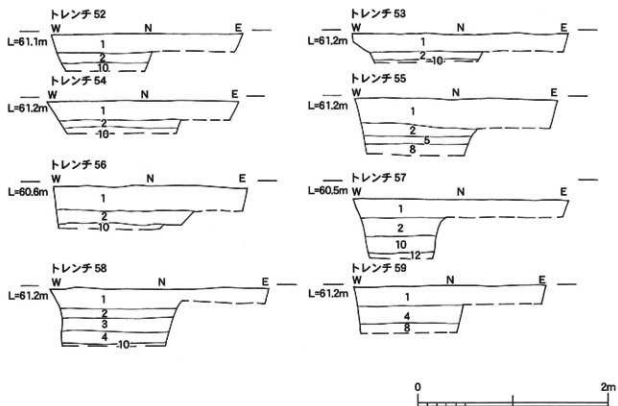


図6 平成22年度 土層図



H 2 2 試掘調査

- 1層 茶褐色砂質土層(耕作土)
- 2層 黄色粘質土層(床土 1)
- 3層 灰褐色粘質土層(旧耕作土)
- 4層 黄色砂質土層(床土 2)
- 5層 暗茶色やや粘質土層(鉄分混じる層)
- 6層 暗茶色やや粘質土層
- 7層 明茶色やや砂質土層(地山)
- 8層 淡茶色やや粘性砂質土層(地山)
- 9層 淡茶色砂質土層(地山)
- 10層 青灰シルト質土層(地山)
- 11層 黄色粘土質土層(地山)
- 12層 赤色砂質土(地山)
- 13層 クロボク層

図 6 平成 2 2 年度 土層図

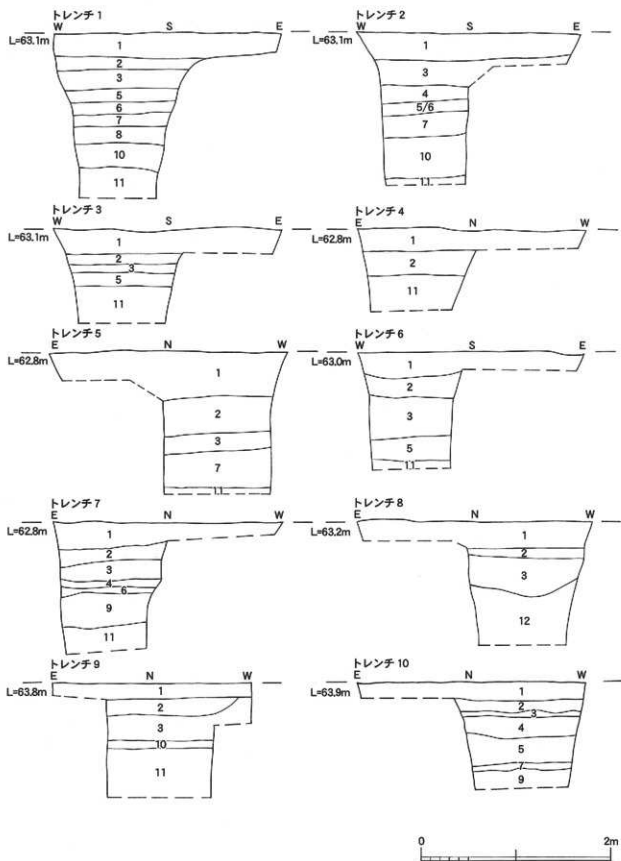


図7 平成23年度 土層図

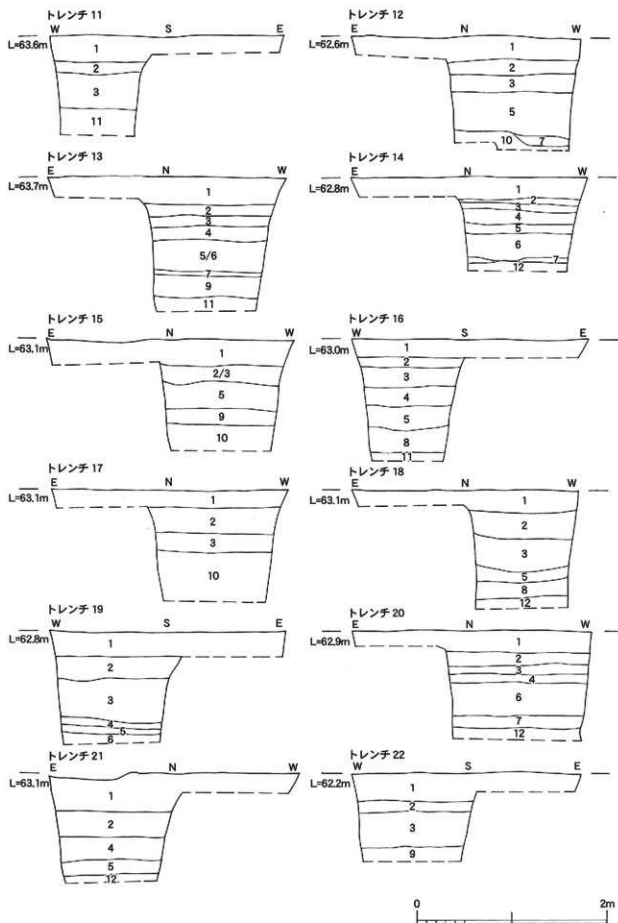


図7 平成23年度 土層図

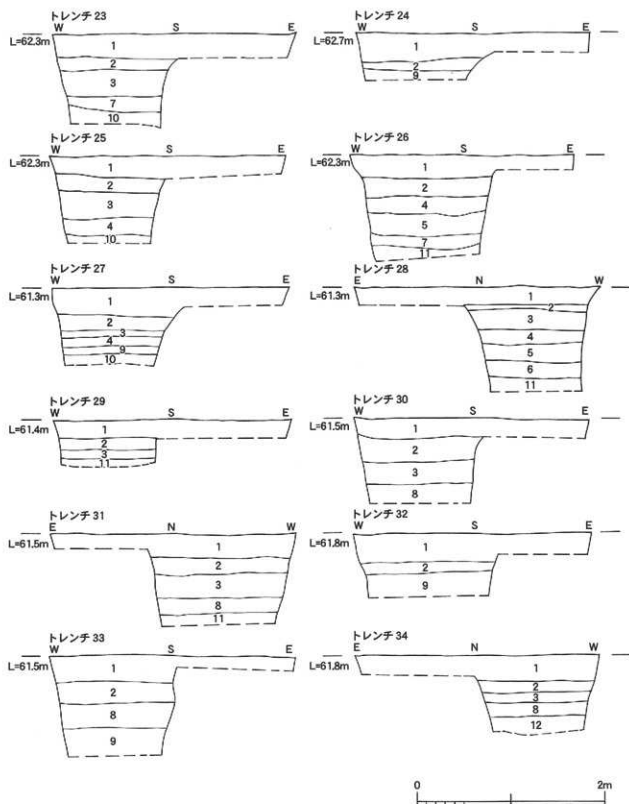
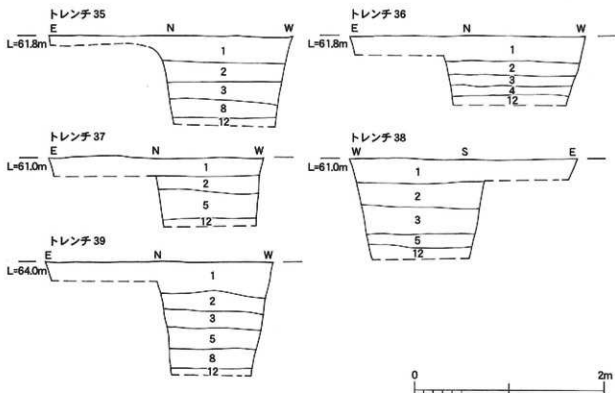


図7 平成23年度 土層図



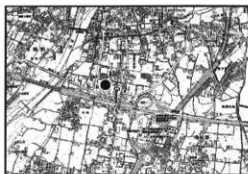
H 2 3 試掘調査

- 1層 茶褐色砂質層(耕作土)
- 2層 黄色粘質土層(床土1)
- 3層 灰褐色粘質土層(2cm未満の黄色粘土斑点混じる)(旧耕作土)
- 4層 暗褐色砂質土層(鉄分混じる)
- 5層 灰色褐色砂質土層(旧耕作土)
- 6層 茶褐色砂質土層(鉄分混じる)
- 7層 灰褐色砂質土層(礫多い)
- 8層 明茶粘質土層(地山)
- 9層 青灰シルト質土層(黄色土混じり)(地山)
- 10層 黄色砂質土層(床土2)
- 11層 青灰褐色シルト質土(地山)
- 12層 茶黒砂質土(地山)

図7 平成23年度 土層図

7、南田原桶川遺跡 確認調査

調査地区 神崎郡福崎町南田原字桶川
3141番3・3141番1の一部
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 古田 陽（福崎町教育委員会）
調査期間 平成23年4月26日（火）



○調査に至る経緯

教会の建て替え工事の計画があり、南田原桶川遺跡の包蔵地内と隣接地点であったため調査の協力を得て、実施した。平成10年の調査結果では、氾濫原に囲まれた部分となるが、桶川の泉との関連のある中世の遺物が少量ながら見ついている。

○調査方法

震災の影響で資材等が遅れ、工事自体が遅れているため、事業主の重機の使用を強く希望された。そのため事業主のオペレーターと重機を使用し、当教育委員会が指示を行い掘削作業を行った。壁面精査及び記録写真図面作成は適宜行った。

○周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、高位の氾濫原として位置付けられる場所であり、現況は教会跡地で解体工事がされ更地となっていた。桶川遺跡は、雲津川の氾濫原に位置し、近くに安徳寺や桶川の泉が存在し、平成10年の調査では、今回の調査場所より南側一部に包含層と溝状遺構が見ついている。主に、旧石器、弥生時代、中世（12～15世紀代）の少量の遺物が見ついている。他は、近くには南田原条里遺跡があり、今回の遺跡よりやや南側に位置する。この遺跡の北側の様子は、調査例が少ないものの、平成20年の調査では、低位の氾濫原に当てはまる場所で遺物は少量出たものの遺構は見つからず、微高地の端部に該当し、西側に遺跡の中心が展開している可能性を示唆している。

○土層状況

全てにトレンチの現地表面より深さが約80cm弱の掘削後から下から水が湧き出てきた。基本的な土層堆積の状況は、1層に造成土、2層に青灰色があり、深さ約120cm前後の掘削を行っても同質の層が続き、水が湧いた。トレンチ1では、暗渠が見つかった。トレンチ4の堆積は、他の堆積とは異なり、1層に造成土、2層に旧耕作土、3層に茶褐色粘質土、4層に旧耕作土、5層に地山、以下5層が続いた。トレンチ1からは遺物は、近世陶磁器（江戸後期の型紙摺り絵を施したもの）片が出土した。現地表面より深さ約100cmのところまで暗渠が見つかる。トレンチ2、3、5は、遺構・遺物とも皆無。トレンチ4は、遺構なし、遺物は近世陶磁器片。

○まとめ

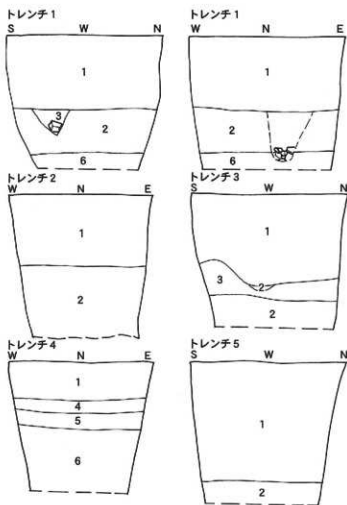
確認調査の結果、遺物の出土は2箇所で見られたが、近世陶磁器片のみである。トレンチ1からは、暗渠が見つかったが、長軸約20cm弱の円状の土坑の中に丸い川原石（約10cm弱）が詰められていた。周辺からは、近世陶磁器片のみ見つかる。



南田原桶川遺跡 確認調査詳細図



南田原桶川遺跡 調査地点



1. 茶褐色粘土質
(1~5 cmの礫含む 造成土)
2. 青灰シルト質土(流路)
3. 礫層(1~5 cm礫層)
4. 青灰色粘質土(水田層)
5. 茶灰褐色シルト質粘土
(マンガン混じり)
6. 暗青灰褐色に淡黄色混じり粘土
(5 cmの礫含む)

南田原桶川遺跡 (平成23年度調査 平面図・土層図)

図9 南田原桶川遺跡 (確認調査)

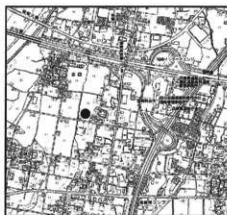
8、南田原条里遺跡（第16次）確認調査

調査地区 神崎郡福崎町南田原字川田2919番2
の一部2917番1の一部ほか

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 古田 陽（福崎町教育委員会）

調査期間 平成23年8月29日（月）



○調査に至る経緯

集合住宅の建設の計画があり周知の遺跡の範囲に該当し、確認調査の必要性があることから協力を得て調査を行った。

○調査方法

重機により掘削し土層状況を確認した。調査予定箇所、2箇所の調査区を設定した。

○周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、市川の氾濫原となる部分で低位氾濫原と位置づけられる。南田原条里遺跡に該当する場所であるが、条里という性格以外に弥生時代の溝やピットに伴う遺物や中世代の遺構、遺物ともに確認されている場所もある。

○調査区の概要

トレンチ1は、構造物を建設する基礎の深い部分を掘削し、地下の状況を把握した。耕作土直下には、床土が敷設され、その下層には旧耕作土と考えられる暗灰色粘質土が確認され、その下層には氾濫原に伴うと考えられる砂質層が堆積している。下から大量の水が湧く。

トレンチ2は、構造物を建設する基礎の深い部分を掘削し、地下の状況を把握した。耕作土直下には、床土が敷設され、その下層には旧耕作土と考えられる暗灰色粘質土が確認され、その下層には氾濫原に伴うと考えられる砂質層が堆積している。下から大量の水が湧く。

遺構・遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

南田原条里遺跡内ではあるが、低位氾濫原に当てはまる場所でもあり、遺構・遺物ともに皆無であった。条里内の遺構等のあるポイントからは外れる場所と考えることができる。

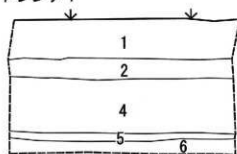


南田原条里遺跡 確認調査詳細図



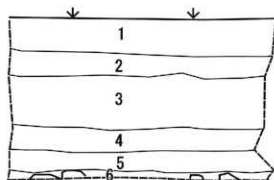
南田原条里遺跡 調査地点 (1/5000)

トレンチ 1



1. 灰茶褐色粘質土 (耕作土)
2. 淡黄灰色粘土 (床土)
4. 暗灰褐色砂質土 (川原石1~5cmの細かい礫を含む)
5. 褐色砂質土
6. 灰色砂質土 (10cm前後の礫含む)

トレンチ 2



1. 灰茶褐色粘質土 (耕作土)
2. 淡黄灰色粘土 (床土)
3. 暗灰色粘質土
4. 暗灰褐色砂質土
5. 褐色砂質土
6. 灰色砂質土 (10cm前後の礫含む)

0 50cm
(1/20)

南田原条里遺跡 (平成23年度調査 平面図・土層図)

図10 南田原条里遺跡 (第16次) (確認調査)

写 真

南田原長目遺跡（確認調査）



調査地点（五智如来東側）



調査地点南より



P4、5、6検出



P7、8、地点9検出



土層東壁



最下層確認



重機埋め戻し作業



埋め戻し完了

南田原条里遺跡（第15次）（確認調査）



重機掘削



トレンチ1



トレンチ2



トレンチ3



トレンチ4



トレンチ5



トレンチ4・5の出土遺物

八千種県民交流広場新設に伴う試掘調査



手掘り掘削作業



トレンチ1北壁 (-20cm)



トレンチ1北壁 (-50cm)



トレンチ1埋め戻し完了



トレンチ2南壁 (-60cm)



トレンチ2埋め戻し作業

平成22年度 西治地区ほ場整備事業に伴う試掘調査



トレンチ41



トレンチ42



トレンチ43



トレンチ44



トレンチ45



トレンチ46



トレンチ47



トレンチ48

平成22年度 西治地区ほ場整備事業に伴う試掘調査



トレンチ49



トレンチ50



トレンチ42西側



トレンチ42-2



トレンチ47土層



トレンチ49ピット



トレンチ50ピット検出



トレンチ50出土遺物

平成23年度 西治地区ほ場整備事業に伴う試掘調査



トレンチ1



トレンチ2



トレンチ5



トレンチ6



トレンチ9



トレンチ10



トレンチ11



トレンチ12

平成23年度 西治地区ほ場整備事業に伴う試掘調査



トレンチ13



トレンチ14



トレンチ17



トレンチ18



トレンチ19



トレンチ20



トレンチ27



トレンチ28

平成23年度 西治地区ほ場整備事業に伴う試掘調査



トレンチ31



トレンチ32



トレンチ35



トレンチ36



トレンチ37



トレンチ38

平成23年度 西治地区ほ場整備事業に伴う確認調査



トレンチ1(東壁)



トレンチ1(北壁)



トレンチ2(東壁)



トレンチ2(北壁)



トレンチ3(北壁)



トレンチ4(東・北壁)



トレンチ4(東・北壁)



トレンチ5(東・北壁)

平成23年度 西治地区ほ場整備事業に伴う確認調査



トレンチ5 炭・土器



トレンチ6北壁



トレンチ6 東壁



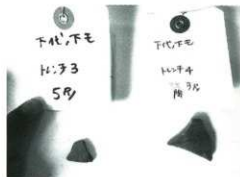
左：トレンチ1 3層陶磁器・土師器・須恵器片



右：トレンチ1 5層 土師器片・鉄碎片



トレンチ3
2層 陶磁器・土師器・
須恵器片



左：トレンチ3 5層 須恵器片
右：トレンチ4 3層 中国製輸入青磁片



左：トレンチ4 4層 土師器片
右：トレンチ5 2層 陶磁器片
3層 須恵器片



トレンチ5 2層 土師器片

南田原桶川遺跡 (確認調査)



トレンチ1 東壁



トレンチ1 西壁(暗渠)



トレンチ2 東壁



トレンチ3 東壁



トレンチ4 西壁



トレンチ5 東壁

南田原条里遺跡 (第16次) (確認調査)



トレンチ1



トレンチ2

報告書抄録

ふりがな 書 名	まいごうぶんかざいほくつちようさほうこくしよ 埋蔵文化財発掘調査報告書
副 書 名	平成22・23年度発掘調査報告書
巻 次	
シリーズ名	福岡町埋蔵文化財発掘調査報告12
シリーズ番号	12
編 著 者 名 編 集 機 関	福岡町教育委員会
所 在 地	〒679-2280 兵庫県神戸郡福岡町南田原3116-1 TEL : 0790-22-0560
発行年月日	2012年12月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みなみわたらながめ いせき 南田原長目遺跡	ひょうごけんかんぽうてんふくさきちよう 兵庫県神戸郡福岡町 みなみわたらながめにはけ 南田原字下野畑 579番1	28443	410007	34° 56' 11"	134° 44' 42"	2010年 10月19日	12.5	携帯電話 基地局
みなみわたらじょうりう いせき 南田原条里遺跡 (第15次)	ひょうごけんかんぽうてんふくさきちよう 兵庫県神戸郡福岡町 みなみわたらあめつひだ 南田原字東田2209番1	28443	410046	34° 56' 38"	134° 45' 37"	2010年 12月24日	22.5	露天 駐車場
やちくさげんあん 八千種農民 交流広場新設地	ひょうごけんかんぽうてんふくさきちよう 兵庫県神戸郡福岡町 やちくさげんあん 八千種字大谷276番1	28443	-	34° 56' 10"	134° 46' 40"	2011年 2月18日	2.5	新設地
さいじちくくじょう 西治地区ほ場 整備試掘調査	ひょうごけんかんぽうてんふくさきちよう 兵庫県神戸郡福岡町 さいじちくくじょう 西治163番3地先	28443	-	34° 56' 51"	134° 44' 33"	2010年 9月27日 2010年 10月4日	435	ほ場整備
さいじちくくじょう 西治地区ほ場 整備試掘調査	ひょうごけんかんぽうてんふくさきちよう 兵庫県神戸郡福岡町 さいじちくくじょう 西治字後屋敷筋260番	28443	-	34° 57' 6"	134° 44' 42"	2011年 6月22日 2011年 6月28日	744	ほ場整備
さいじちくくじょう 西治下代/下モ 遺跡	ひょうごけんかんぽうてんふくさきちよう 兵庫県神戸郡福岡町 さいじちくくじょう 西治字下代/下モ669番1	28443	410138	34° 56' 55"	134° 44' 33"	2011年 6月29日 2011年 6月30日	50	ほ場整備
みなみわたらかわらけいせき 南田原柳川遺跡	ひょうごけんかんぽうてんふくさきちよう 兵庫県神戸郡福岡町 みなみわたらかわらけいせき 南田原字柳川3141番3、 3141番1の一部	28443	410131	34° 57' 3"	134° 45' 33"	2011年 4月26日	12.5	新設地
みなみわたらじょうりう いせき 南田原条里遺跡 (第16次)	ひょうごけんかんぽうてんふくさきちよう 兵庫県神戸郡福岡町 みなみわたらあめつひだ 南田原字川田2919番2、 2917番1のほか	28443	410046	34° 56' 46"	134° 45' 33"	2011年 8月29日	22.5	新設地

2012年12月20日 印刷

2012年12月25日 発行

平成22・23年度発掘調査報告書
福崎町埋蔵文化財調査報告12

著作権 兵庫県神崎郡福崎町南田原3116-1
発行者 福崎町教育委員会

印刷者 クリヤ印刷所

